

論文

日本インドネシア相互理解カリキュラム開発に関する基礎調査 -パートナー国に関する学習経験と要望-

Basic survey for curriculum development of mutual understanding between Japan and Indonesia
- the experiences of and demands for learning about the partner country -

藤田 詠司 (高知大学教育学部)

藤本 富一 (高知大学教育学部)

遠藤 隆俊 (高知大学教育学部)

山崎 聡 (高知大学教育学部)

遠藤 尚 (高知大学教育学部)

ファリダ (スリウィジャヤ大学教育学部)

ウミ=ホティマー (スリウィジャヤ大学教育学部)

Eiji FUJITA, Tomikazu FUJIMOTO, Takatoshi ENDO, Satoshi YAMAZAKI and Nao ENDO

Faculty of Education, Kochi University

Dr. Farida, M.Si. and Umi Chotimah, Ph.D

Faculty of Teacher Training and Education, Sriwijaya University

ABSTRACT

As a result of the survey, it was revealed that there are clear differences between UNSRI and KU regarding degree of interest in, knowledge of, learning experience of and learning demand for the partner country from elementary school to university.

UNSRI side is interested in Japan and has knowledge on a wide range of fields including economics/technology, education/character, culture, nature, war/colony, has many learning experiences from elementary school to college mainly on war/colony, and has learning demand with more clear purposes. Social scientists and natural scientists show the same tendency. KU side is not so interested in Indonesia, has little knowledge except for its geographical location and country name, has few learning experiences about it from primary school to university, does not have a concrete image of desirable learning. There is no difference between social scientists and natural scientists, except for the degree of interest in Indonesia. The result of UNSRI shows, that the students in Indonesia learn mainly about the colonization by Japan at school, and have certain knowledge about various aspects of Japan probably due to influences of the mass media and Japanese products. However, regarding "colonies", Japan at that time distinguished between so called colonies, or "outer lands" inclusive of Taiwan and Korea, and the territories, that the Japanese army occupied and governed, such as Singapore and Indonesia. There is a difference in recognition of Indonesia's status at that time between the two countries. And the view that Japanese education is fostering good human resources and promoting the development of technology is widely shared among UNSRI students and lecturers, but there is little consciousness of problems, that could have been caused by Japanese education and technology development. The result of KU shows, that It is necessary for Japanese students to be motivated to learn about Indonesia in general.

Based on the results above, unit or teaching material development concerning "colonial management and occupation governance by Japan" and "relation between Japanese technology development and education" mainly for Indonesian students, and unit or teaching material development for drawing out interests and concerns about Indonesia for Japanese students will be required.

1. はじめに

近年、日本とインドネシアの交流人口は着実に増え、今後も増え続けることが予想される。日本を訪れるインドネシア人は、日本政府観光局の統計データによると、2003年には約64,000人であったが、2015年には約200,000人となり、伸び率は3.31である。2014年12月より、インドネシアIC旅券を所有するインドネシア国民に対する事前登録制によるビザ免除が実施されており、アジアの中で今後も経済発展が持続するとみられていることから、日本を訪れるインドネシア人は増え続けると予想される。インドネシアを訪れる日本人は、2012年には約445,000人であり¹、2015年には約490,000人に増えている。インドネシア政府は、2019年までに外国人訪問者数2000万人という方針を大統領が掲げており、2016年の目標は1200万人、日本は国・地域別で6番目となる55万人とされている²。インドネシアでも、2015年6月より日本人等に対して観光ビザ免除が実施されており、今後もインドネシアを訪れる日本人は着実に増えていくと予想される。

このようななかで、両国民の適切な相互理解が行われることは重要なことである。しかし、日本では、学校教育に限定しても、インドネシアについて知る機会はいずれも多くない。日本人は、インドネシアについてどのようなことを、どのような機会に知っているのだろうか。それは機会と内容において適切であろうか。翻って、インドネシア人は、日本についてどのようなことを、どのような機会に知っているのだろうか。それらは適切なあり方だろうか。もし適切でないとしたら、どのように対応すべきだろうか。学校教育において、相互理解のためのどのようなカリキュラム開発が可能であろうか。³本研究は、以上のような問題意識にもとづき、日本とインドネシアの相互理解カリキュラム開発のための基礎調査を行うことを目的とする。

2. 調査の目的と方法

1) 調査の目的

インドネシアと日本の相互理解を促進するためのカリキュラム開発の基礎データとして、相手国に関する教員養成課程の学生および教員の学習歴、既有知識、学習要望を明らかにする。

2) 調査の方法

上記の目的を達成するため、調査は、質問紙によって行った⁴。調査対象は、スリウィジャヤ大学教育学部（以下、UNSRIとする）および高知大学教育学部（以下、KUとする）の社会科学系コースの学生および教員、数学教育コースの学生および教員である。数学教育の学生・教員を対象に加えたのは、いわゆる文系・理系の差の有無を調査するためである。調査の実施時期は、2016年5月から7月に

かけてである。回答者の総数は295名である。内訳は、UNSRI側は、公民教育コースの学生（以下、UP-Sとする）53名、教員（以下、UP-Lとする）6名、歴史教育コースの学生（以下、UH-Sとする）50名、教員（以下、UH-Lとする）4名、経済教育コースの学生（以下、UE-Sとする）49名、教員（以下、UE-Lとする）12名、数学教育コースの学生（以下、UM-Sとする）25名、教員（以下、UM-Lとする）3名である。KU側は、社会科学教育コースの学生（以下、KS-Sとする）32名、教員（以下、KS-Lとする）6名、数学教育コースの学生（以下、KM-Sとする）50名、教員（以下、KM-Lとする）5名である。

なお、以下の集計と考察において、教科等は次のように省略する。

インドネシア共和国

社会科：IPS

公民科：PKN

中学校社会科地理：IPS-G

中学校社会科歴史：IPS-H

中学校社会科経済：IPS-E

高校および大学の地理系科目：IG

高校および大学の歴史系科目：IH

高校および大学の経済系科目：IE

日本

小学校および中学校社会科：SS

中学校社会科地理的分野：SS-G

中学校社会科歴史的分野：SS-H

中学校社会科公民的分野：SS-C

高校地理歴史科地理：GHG

高校地理歴史科世界史：GHW

高校地理歴史科日本史：GHJ

高校公民科現代社会：CPS

高校公民科倫理：CET

高校公民科政治経済：CPE

大学の地理学系科目：JG

大学の歴史学系科目：JH

大学の法学系科目：JL

大学の経済学系科目：JE

大学の哲学系科目：JPH

大学の政治学系科目：JPO

大学の社会学系科目：JS

大学の社会科学教育学系科目：JTS

3. 調査結果

(1) 相手国に対する興味

Table1に示したとおり、UNSRIの学生と教員のほとんどが、日本に対して「とても興味をもっている」ないしは「興味をもっている」と回答している。それに対して、KU

Table1

	UP-S	UH-S	UE-S	UM-S	UP-L	UH-L	UE-L	UM-L	KS-S	KM-S	KS-L	KM-L
a)very interested	27	18	17	5	1	1	4	1	1	0	2	1
b)interested	23	24	31	18	5	3	8	2	11	10	3	0
c)not interested so much	3	7	0	2	0	0	0	0	19	28	1	3
d)not interested at al	0	0	0	0	0	0	0	0	1	12	0	1
blank	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0

の学生の過半数がインドネシアに対して「あまり興味をもっていない」ないしは「全く興味をもっていない」と回答している。KUの教員の場合は、学生に比べて、インドネシアに対する興味の度合いが1ランクほど高い。UNSRI内部では、UPの学生のみ「とても興味をもっている」の数が「興味をもっている」を上回っているのに対して、それ以外のコースの学生および全てのコースの教員では、

「興味をもっている」が「とても興味をもっている」を上回っている。UPの学生以外は、UMを含めて、日本に対する興味の傾向は同じだと言える。これに対して、KUのKSとKMは、異なる傾向を示している。KSの学生のうち過半数が「あまり興味をもっていない」と回答しているが、その半数を超える学生が「興味をもっている」と回答している。KSの教員は、「とても興味をもっている」と「興味をもっている」が大半である。これに対して、KMの学生も教員も、インドネシアに対する興味の度合いは、KSの学生・教員に比べて低い。KMの学生のうち最も回答が多かったのは「あまり興味をもっていない」であり、その次に多かったのが「全く興味をもっていない」である。2つを合わせると、4/5が否定的な回答をしていることになる。教員についても、2つの選択肢の合計が、4/5になる。KUの場合、いわゆる文系と理系の差がはっきりと現れている。

(2) 相手国について知っていること

1) 知っていることに関する傾向

Table2に示したように、相手国について知っていることに関する回答を、事後的にカテゴリー化し、集計した。設定したカテゴリーは、「経済・技術」、「教育・性格」、「文化」、「自然」、「戦争・植民地」、「その他」である。

UNSRI側の回答では、「経済・技術」に該当する内容は、収入、経済協力、カイゼン、良い製品、輸送機関、電気製品などにかかわるものであった。「教育・性格」に該当する内容は、良い教育、規律、時間の正確さ、「文化」に該当する内容は、桜、寿司、茶道、着物、漢字、アニメ、相

撲、空手、神道など、「自然」に該当するに阿用は、富士山、地震、津波、四季など、「戦争・植民地」に該当する内容は、日本による植民地化、インドネシアの独立、原爆投下、真珠湾攻撃など、「その他」に該当する内容は、日本の首都、島国日本の地理的位置などにかかわるものであった。KU側の回答では、「経済・技術」に該当する内容は、発展途上国、天然ガス、ゴム、パーム油など、「教育・性格」に該当する内容は、ストリートチルドレン、「文化」に該当する内容は、ナシ・ゴレン、言語、ボロボドゥール、ヒンドゥー、イスラムなど、「自然」に該当する内容は、気候、バリ島、津波、地震など、「戦争・植民地」に該当する内容は、オランダによる植民地化、日本の軍政など、「その他」に該当する内容は、インドネシアの首都、島国、インドネシアの地理的位置などにかかわるものであった。

単語だけ列挙している場合も、文章の中で触れられている場合も、いずれも、同じ回答者の回答の中で、ひとつでもあるカテゴリーにかかわる内容が出現すれば、それを「1」と数え、コースごとに集計した。UNSRI側は、学生も教員も、全てのカテゴリーについて触れながら回答しているのに対し、KU側は、学生も教員も、「その他」のカテゴリーにかかわる回答に偏っている。「教育・性格」にかかわる回答はほぼゼロであり、「戦争・植民地」にかかわる回答も極めて少ない。UNSRI側の回答を詳しく見てみると、回答のあるカテゴリーについて、コース間に若干の相違が見られる。ほぼ過半数の者が回答が回答しているかどうかで区別してみると、ほぼ過半数の者が回答していないカテゴリーは、UPの学生の場合は「戦争・植民地」と「その他」、UHの学生は「その他」、UEの学生は「自然」、「戦争・植民地」と「その他」、UMの学生は「教育・性格」、「戦争・植民地」と「その他」、UPの教員はなし、UHの教員は「その他」、UEの教員は「文化」と「その他」、UMの教員は「戦争・植民地」である。全体として、「戦争・植民地」と「その他」は、あまり触れられていないカテゴリーであることがわかる。KU側では、ほぼ過半数の者が触れていないカテゴリーは、KSの学生の場合は「そ

Table2

	UP-S	UH-S	UE-S	UM-S	UP-L	UH-L	UE-L	UM-L	KS-S	KM-S	KS-L	KM-L
1)Economy/Technology	37	32	34	16	6	3	8	2	9	10	2	1
2)Education/Chracter	27	23	24	7	5	3	7	2	0	1	0	0
3)Culture	25	32	27	17	2	2	4	2	12	8	4	3
4)Nature	26	20	18	13	2	2	5	1	10	24	3	3
5)War/Colony	14	24	7	8	3	2	6	0	2	1	2	1
6)others:	9	20	10	11	2	0	2	1	28	33	5	4
blank	0	1	2	0	0	0	1	0	2	8	1	0

他」以外の全て、KMの学生の場合は「自然」と「その他」以外の全て、KSの教員は「教育・性格」、KMの教員は「経済・技術」、「教育・制買う」と「戦争・植民地」である。

2) 知っていることに関する特徴的な回答

パートナー国について知っていることに関する回答の多くは、知っていることについて単語ないしは短い文章を列挙しているものである。比較的少数ではあるが、特定の内容について詳述しているものもある。

UNSR側側の単語列挙の回答としては、次のようなものが典型的である。技術や性格、文化、自然について、思いつくままに単語を列挙してある。

- ・新幹線、規律、ドラえもん、歩行者が多い、乗り物が多くて便利、寿司、ハチ公の像、地震がよく起こる国、着物、腹切り (UP-S27)

単語列挙した回答は少数であり、大多数は短文列挙である。例えば、以下のように回答している。

- ・日本の首都は東京。日本は東アジアにある。日本人は神道を信仰している。日本は桜と富士山で有名。日本には歴史的な文化や天皇がある。日本は規律と統治システムにおいて発展している。技術と交通が発展した国の一つ。ロボットもつくっている。日本の教育はとても良い。日本の料理はわさび、刺身など。(UH-S18)

特定の内容について詳しく回答しているものとして、例えば日本の技術について詳述している回答は以下のようなものである。

- ・日本は東アジアにある国。技術がよくて先進国。日本は一つの有名な工業国。他の国へ輸出されるものは機械。たとえば、ヤマハ、ホンダ、スズキ、カワサキ。他のものも発展している。たとえば、原子力発電所や衛星、ロボット、新幹線、地下鉄など。日本の経済もよい。

(UP-S6)

日本の技術の高さを指摘した回答は多いが、中には技術の進歩と文化維持のバランスを見ている以下のような回答もある。

- ・日本は先進国であり、技術の進歩は非常に急速。教育は非常によい、人的資源から見られる。よい人的資源をもっているため、日本はたくさんの近代技術を創造できる。日本人は今までの祖先の文化をまだ維持している。たとえば、お辞儀と茶道。茶道のやり方もたくさんの意味と哲学的な内容がある。日本人は着物と刀をまだ維持している。(UP-S46)

日本の文化的魅力を詳述した、以下のような回答もある。

- ・日本は世界のアニメの中心で、日本でつくられたアニメがたくさんある。それが日本の観光を促進している。日本の映画も良い。日本人の規律正しさが描写されている。お茶を飲むユニークな文化があり、現在でもいくつかの地域で行われている。インドネシアでも走っている自動車が生産されている。(UH-S21)

先のUP学生やUH学生の回答でも、技術や文化に関連させて日本の教育や日本人の性格が触れられているが、教育と技術の発展を直接結びつけている以下のような回答もある。

- ・日本は先進国の一つで、急速に技術が進歩した。それは、日本には優れた教育制度があるから。なので、日本はよい人材を育成できるし、たくさん近代技術を発明することができる。日本は侵略者の国だった。たとえば、インドネシアを植民地化した。日本の首都は東京。着物 (UP-S44)

日本の教育については、目標・方法について踏み込んで記述した以下のような回答もある。

- ・四季のある国、島の大部分が山、日本の教育システムは知識を教えるだけでなく、どのように相互作用するか、自立するかも教える、日本人は規律正しく熱心、自殺率が高い。(UE-S17)

先のUP学生の回答でも日本がインドネシアを植民地化したことに触れられているように、日本によるインドネシアの植民地化を挙げた回答は多い。ほとんどが「植民地化」という否定的表現を使っているが、その表現を使うことなく日本統治を肯定的に捉える以下のような回答もある。

- ・日本はとても美しく小さな国。建物の構造だけでなく文化も魅力的。態度や話し方について礼儀正しいマナーで有名。機械技術で有名。ロシアの技術と競争している。インドネシアに対して軍事を教えた国。インドネシア憲法制定を支援した国。(UE-S41)

あるいは、日本によるインドネシアの植民地化を、太平洋戦争における日本のねらいや戦略、インドネシア独立と関係づけ、多角的に捉えようとする以下のような回答もある。

- ・東アジア戦争で日本を知っている。日本は自分を強いと思いき、世界を支配したかった。真珠湾を攻撃しアメリカの戦争が勃発した。しかし、インドネシアを含む東南アジアの国の支援を要請するという方法で戦った。それは日本の戦術だけで、インドネシアは植民地化されてしまった。戦争が終わるのは広島と長崎がアメリカによって

爆撃されてから。そのことでインドネシアは独立を宣言することになった。(UH-S33)

さらには、戦争や植民地だけでなく、より広い視野から日本の歴史を捉えようとする以下のような回答もある。

- ・日本は東アジアの国。日本の文化は中国のものに似ている。それは多くのものを中国から得たから。しかし全ての文化が同じというわけではない。日本人は小さな目を白い肌をもっている。昔の日本には多くの時代がある。そのうちの一つは鎌倉。日本には多くの家系がある。第2次世界大戦のとき、日本は他の国と戦った。日本には、インドネシアや朝鮮など、多くの植民地があった。

(UH-S8)

- ・日本はアジアに位置する島国。世界で最上の教育制度を持っている。明治維新の前に、日本は分離の政治を実践し、明治維新の後はゆっくりとアジア地域の先進国になった。第2次世界大戦に参戦した。広島と長崎がアメリカに爆撃された後、日本は敗北を認めた。インドネシアを植民地化したことがある。(UH-S31)

自然については、桜や四季の存在、自然災害がよく起こることの指摘が多い。文化については、項目列举が多い。

KU 側では、UNSRI 側に比べて、単語や短文を列举した回答が多い。しかも、列举するほどの断片知的知識も持ち合わせていない、一語や二語の回答多い。例えば、以下の JM 学生の回答がある。

- ・ゴム？ パーム油？ 亜熱帯？ 国旗が赤白、アジア、スマトラ島の地震 (KM-S11)
- ・アジアにある。暑い。(KM-S31)
- ・島国。人口が多い。(KM-S40)

特定の内容について詳述した回答はそれほど多くないが、経済と文化に触れた以下のような回答がある。

- ・言葉はインドネシア語。首都はジャカルタ。宗教は多くの人がイスラム教を信仰している。多くの島々からなり、熱帯である。かつては原油など資源に輸出を頼っていたが、近年では加工貿易を行うようになった。ASEAN の

本部はジャカルタにあり、東南アジアの中心地ともいえる。(KS-S2)

植民地に触れた数少ない意見として、以下の回答がある。ただし、日本が統治したことは明示されていない。植民地に触れた他の回答は、オランダによる植民地化にしか言及していない。

- ・日本と同じく島国で、スマトラ島、ジャワ島、カリマンタン島などの大きな島からその他の小さな島がある。古くはインドの影響から仏教やヒンドゥー教が盛んであったが、現在はイスラームが広く信仰され、一部ではオランダ等欧州の植民地であった影響でキリスト教も信仰されている。(KS-S3)

自然に関わる回答は、多くが気候に関するものである。少数ではあるが、スマトラ沖地震に触れた、以下の回答もある。

- ・インドネシア領内で起きたスマトラ沖地震により壊滅的なダメージをこうむったこと。もとより、居住地の大半が海拔の低いところにあるため津波や大雨の影響を受けやすいということ。サテヤナシゴレン等のインドネシア料理は食したことがあります。(KM-S5)

(3) 小学校での相手国学習経験

1) 学習経験の傾向

Table3 は、小学校における相手国に関する学習経験の傾向を示している。UNSRI の学生と教員のほとんどが、IPS で日本について学習したと回答している。これに対して、KU の学生の多くは SS でインドネシアについて学習したと回答している。いずれの大学も、文系と理系の差は見られない。UNSRI と KU の大きな違いは、KU 側には無回答者が多数いるのに対して、UNSRI 側には無回答者がそれほどいないことである。KU 側では、とくに、教員のほとんどが無回答であった。無回答である理由は、インドネシアについて学習したかどうか覚えていないということだと思われる。小学校での学習から多くの年月が経っているだけでなく、学習指導要領上、SS でインドネシアが必ず中心的学習対象となることにはなっていないため、仮に

Table3

		UP-S	UH-S	UE-S	UM-S	UP-L	UH-L	UE-L	UM-L	KS-S	KM-S	KS-L	KM-L
a)IPS	a	38	39	37	17	3	2	6	1				
b)PKN	a,b	6	0	0	4	2	1	1	0				
c)others	a,c	0	0	0	1	0	0	2	0				
	a,b,c	1	0	1	0	0	0	0	0				
	b	1	1	4	1	1	0	1	2				
	b,c	1	0	0	0	0	0	0	0				
	c	1	1	1	1	0	0	1	0				
	blank	5	9	9	1	0	1	0	0				
a)SS										14	26	0	0
b)others										1	10	0	2
blank										17	14	6	3

インドネシアについて学習が行われていたとしても、国名や地理的位置を確認する程度の、印象に残りにくいものであったことが想像される。これは、印象に残っている授業についての無回答が、学習経験に関する無回答以上の数に上ることによっても裏付けられている。これに対して、UNSRI側で教員も含めて、小学校のIPSで学習したという明確な回答があるのは、インドネシア独立の過程が明確な学習対象としてカリキュラムに位置づけられているからであろう。⁵実際、印象に残っている授業として最も回答が多かったのが、第二次世界対戦や日本による植民地支配にかかわるものであった。

2) 印象に残っている授業についての特徴的な回答

UNSRI側では、日本が「インドネシアを3年半植民地にした」ことを挙げる回答が最も多い。それに加えて、以下のように、3つのモットーの宣言、インドネシア語の使用許可、強制労働(労務者)の実施、独立準備委員会の設置などに触れる回答や、原爆投下に続く日本の敗戦を挙げる回答も多く見られる。

- ・1942年から1945年までの日本による植民地時代に、日本は3つのAのモットーを持ちこんだ：日本はアジアを変える、日本はアジアの保護者となる、日本はアジアのリーダーとなる、当初、インドネシアは日本を歓迎した。後に、インドネシアは日本の意図を知った。そして、独立しようと試みた。(UHS-5)
- ・オランダと日本による植民地への抵抗について。インドネシア人の心をつかみ、日本への協力を得るために、日本はインドネシア国旗や国歌、インドネシア語の使用を許可した。(UE-S28)
- ・3年半の間、日本はインドネシアを植民地化した。さらに日本の植民地時代はインドネシアで強制労働があっ

た。(UP-S36)

- ・社会科で、独立の歴史がテーマになった。そこで、日本による植民地化やインドネシア独立委員会の設置について学んだ。公民科でレンガスデンクロック事件がテーマになった。(UP-S18)
- ・日本が1945年8月14日に連合国に降伏するのは、8月6日広島に、8月9日に長崎にアメリカによって原爆が落とされた後。(UH-S35)

KU側は、空欄が多く、また、印象に残っていない、あまり覚えていないという回答が多い。数少ない具体的な授業内容が記述されている回答は、スマトラ沖地震に触れたものである。例えば、以下の回答である。

- ・地図帳でインドネシアの位置を確認した程度。5、6年の頃に、インドネシアで大きな地震が発生した時のことを先生が話してくれた。(KS-S5)

(4) 中学校での相手国学習経験

1) 学習経験の傾向

中学校での相手国に関する学習経験の傾向を示しているのが、Table4である。UNSRIの学生の多くが、IPS-Hで日本について学習したと回答している。教員については、IPS-Hを挙げた者が多いが、学生に見られるほど顕著ではない。無回答者は、小学校と同程度ある。KU側は、学生の多くが、そして教員の一定数が、SS-Gでインドネシアについて学習したと回答している。無回答者は、小学校と同程度ある。いずれの大学も、文系と理系の差は見られない。KU側で無回答者が多いこと、それに比べてUNSRI側で無回答者が少ない理由は、小学校の場合と同じであると思われる。⁶

Table4

		UP-S	UH-S	UE-S	UM-S	UP-L	UH-L	UE-L	UM-L	KS-S	KM-S	KS-L	KM-L
a)IPS-G	a	8	2	3	2	0	2	1	0				
b)IPS-H	a,b	4	2	3	5	1	0	1	0				
c)IPS-E	a,b,c	0	2	4	0	0	0	3	0				
d)PKN	a,b,d	0	0	0	1	1	0	0	0				
e)others	a,c	0	0	2	0	0	0	1	0				
	a,d	0	0	1	0	0	0	0	0				
	a,b,c,d	2	0	0	0	0	0	1	0				
	b	21	28	27	10	1	1	1	0				
	b,c	0	1	1	1	0	0	1	2				
	b,d	7	1	0	2	1	0	0	0				
	c	1	2	1	0	0	0	2	1				
	d	4	2	1	2	1	0	1	0				
	blank	6	10	6	2	0	1	0	0				
a)SS-G	a									14	31	1	2
b)SS-H	a,b									1	0	1	0
c)SS-C	a,b,c									0	1	0	0
d)others	b									0	0	0	0
	c									0	1	1	0
	d									2	5	0	1
	blank									15	12	3	2

Table5

		UP-S	UH-S	UE-S	UM-S	UP-L	UH-L	UE-L	UM-L	KS-S	KM-S	KS-L	KM-L
a)IG	a	0	0	3	1	1	0	1	0				
b)IH	a,b	2	2	2	4	0	0	1	0				
c)IE	a,c	0	0	1	0	0	0	1	0				
d)PKN	a,b,c	1	1	1	2	1	0	3	0				
e)others	a,b,d	0	0	1	1	0	0	0	0				
	a,b,e	0	0	0	1	0	0	0	0				
	a,b,c,d	0	0	0	0	0	0	0	0				
	a,b,c,d,e	1	0	0	0	0	0	0	0				
	b	27	33	21	9	0	3	1	1				
	b,c	0	0	5	0	0	0	1	0				
	b,d	8	1	0	0	2	0	0	0				
	b,e	0	1	0	0	0	0	0	0				
	b,c,d	1	0	0	0	0	0	0	0				
	c	3	1	1	1	1	0	3	1				
	d	3	0	2	1	1	0	1	0				
	e	1	1	5	2	0	0	0	1				
	blank	6	7	7	3	0	1	0	0				
a)GHG	a									9	31	2	2
b)GHW	a,d									0	1	0	0
c)GHJ	b									6	3	0	0
d)CPS	b,d									1	0	0	0
e)CET	c									4	0	0	1
f)CPE	d									0	2	1	0
g)others	e									0	0	0	0
	f									0	1	0	0
	g									2	1	0	1
	blank									9	11	3	1

2) 印象に残っている授業についての特徴的な回答：

UNSRI 側は、小学校の場合と同様に、日本によるインドネシアの植民地化に関する内容を挙げる回答が非常に多い。そして、小学校の場合に比べて、内容がより詳細になっている。

- ・日本は 1942 年から 1945 年までインドネシアを植民地とした。オランダによる 350 年の植民地より短い、3 年半日本に植民地にされて、すごくひどいと思った。

(UP-S8)

- ・世界大戦を扱った。貿易を通じて日本は侵攻しインドネシアを植民地化しはじめた。それから、現地人に強制労働をさせて、日本軍人の性欲を満足させるために現地の女性に仕事をさせた。(UP-S25)
- ・日本がインドネシアにいる間、多くのインドネシア人が学校に通った。日本はインドネシア人を軍事訓練にリクルートした。それから、インドネシア人は Rohingha にされ、スリナムに連れて行かれた。(UE-S29)
- ・インドネシアを植民地化していた日本は、広島と長崎にアメリカによって爆撃された。その知らせを聞いて、インドネシアにいた日本軍は国を助けるために自国に引き上げた。インドネシアはこのとき日本の植民地から独立するチャンスを見つけた。(UP-S46)
- ・日本が第 2 次世界大戦で負け、前田将軍の家で独立宣言が準備され、インドネシアは独立した。(UH-S20)
- ・インドネシアの独立宣言とレンガス・デンクロック事件。レンガス・デンクロック事件は、スカルノ大統領とハッタ副大統領に対する拉致計画。意図は、すぐに独立宣言

を実現するよう迫ること。しかし成功しなかった。

(UP-S44)

KU 側は、小学校の場合と同様に、空欄が多く、また、印象に残っていない、あまり覚えていないという回答が多い。国名や地理的位置について学んだという回答以外で、中学校社会科地理的分野の内容に具体的に触れた回答は、以下の 1 件のみであった。

- ・東南アジアとの交易。プランテーション農業。(KS-S31)

(5) 高等学校での相手国学習経験

1) 学習経験の傾向

Table5 は、高等学校での相手国に関する学習経験の傾向を示している。UNSRI の学生の多くが、IH で日本について学習したと回答している。教員については、他の科目と併せて IH を挙げた者が多い。無回答者は、小・中学校と同程度ある。KU 側は、学生の多くが GHG でインドネシアについて学習したと回答している。GHW と GHJ を挙げた学生も一定数いる。無回答者は、小・中学校に比べると、やや少ない。UNSRI 側で文系と理系の差は見られない。KU 側は、理系学生に比べて文系学生の方が、回答が GHG、GHW、GHJ に分散する傾向が見られる。

2) 印象に残っている授業についての特徴的な回答：

UNSRI 側は、中学校と同じだがより詳しく学んだという趣旨の回答が多く見られる。また、外国語の一つとして日本語を選択することのできる高等学校もあり、その経験内

容を回答した者もある。具体的には、以下のようである。

- ・第二次世界大戦のとき、1945年5月1日に連合国は沖縄を占領した。9月6日から9日まで連合国は広島と長崎を爆撃した。それから8月8日にロシアは日本に宣戦布告した。(UP-S31)
- ・中学校とほとんど同じ。ただし、日本の侵略についてもっと詳しく学んだ。インドネシアが日本の影響を受けたのは、教育や文化など。(UH-S5)
- ・日本はインドネシアを植民地化したことがある。日本がつくった団体は3A、警防団、PUTERAと青年団。労働者。残虐行為にインドネシア人は苦しんだ。(UH-S14)
- ・歴史：日本がインドネシアにいた時代、第1次・2次世界大戦のときに日本が連合国と戦ったこと、冷戦が起こったときにとった日本の戦略。地理：日本の面積は大きくなく、たくさんの山と海岸が多い。経済：日本政府とインドネシア政府が貿易において行っている協力。(UE-S42)
- ・日本語の文字、日本語でのあいさつ、日本の文化や習慣、日本の歌、父親、おじさん、母親などの呼び方。(UE-S3)

KU側は、文系の学生の回答が、中学校の場合に比べて、より広範かつ詳細になっている。理系の学生の回答は、「覚えていない」や「特になし」が目立ち、また、あまり具体性がない。

- ・大航海時代のころにオランダの植民地になった。香辛料を求めてヨーロッパの国がインドネシアへやってきた。(KS-S1)
- ・ボロブドゥールの遺跡がヒンドゥー・仏教それぞれの時

代があつて、神秘的な遺跡であつた。唐の僧義浄が来て「南海寄帰内法伝」にも当時のインドネシアの仏教などについて記してある。(KS-S3)

- ・人口が非常に多い。ASEANについて、非常に経済が発展していること。(KS-S12)
- ・イスラム教徒が西アジアやアフリカだけではなく、東南アジアの方にもイスラム教があるということ。(KS-S15)

(6) 大学での相手国学習経験

1) 学習経験の傾向

Table6は、大学での相手国に関する学習経験の傾向を示している。UNSRIの学生のほとんどが、自身の専門領域で日本について学習したと回答している。すなわち、PP-SはPKNにおいて、PH-SはIHにおいて、PE-SはIEにおいて、それぞれ学習したと回答している。UNSRIの教員は、PP-LとPH-Lの多くがPKNで、PE-Lの多くがIEで学習したと回答している。無回答者は、小・中・高に比べて、学生に多い。KUの学生の場合、KS-Sの多くはJGで学習したと回答している。KM-Sの大半は無回答である。教員も大半は無回答である。UNSRIもKUも、無回答者のほとんどは、大学でパートナー国について学習する科目を履修していないため、学習した経験がないと思われる。

2) 印象に残っている授業についての特徴的な回答：

UNSRI側は、自身の専門領域での学習について回答しているため、日本による植民地化や戦争以外の授業に関する回答が目立つ。また、戦争に関する内容も、より詳細な

Table6

		UP-S	UH-S	UE-S	UM-S	UP-L	UH-L	UE-L	UM-L	KS-S	KM-S	KS-L	KM-L
a)IG	a	0	0	2	0	0	0	1	0				
b)IH	a,b,c	0	1	0	0	0	0	0	0				
c)IE	a,c	0	0	1	0	0	0	0	0				
d)PKN	a,c,e	0	0	1	0	0	0	0	0				
e)others	a,e	0	0	1	0	0	0	0	0				
	b	1	40	2	0	1	1	0	0				
	b,c	0	0	1	0	0	0	0	0				
	b,c,d	0	0	1	0	0	0	0	0				
	b,d	1	0	0	0	1	0	0	0				
	c	0	0	7	0	0	0	2	1				
	c,d	0	0	0	0	0	0	1	0				
	d	24	0	0	1	3	2	0	0				
	e	5	0	15	2	0	0	5	0				
	blank	22	9	18	22	1	1	3	2				
a)JG	a									15	1	1	0
b)JH	b									0	0	0	0
c)JL	c									0	0	0	0
d)JE	d									0	1	0	0
e)JPH	e									0	0	0	0
f)JPO	eg									1	0	0	0
g)JS	f									0	0	0	0
h)JTS	g									0	0	0	0
i)others	h									0	0	0	0
	i									1	3	0	1
	blank									15	45	5	4

Table7

	UP-S	UH-S	UE-S	UM-S	UP-L	UH-L	UE-L	UM-L	KS-S	KM-S	KS-L	KM-L	
a)IPS	a	33	37	34	16	3	4	7	2				
b)PKN	a,b	1	1	0	2	3	0	1	0				
c)others	a,c	0	0	1	1	0	0	0	1				
	b	6	1	2	2	0	0	1	0				
	b,c	1	0	0	0	0	0	0	0				
	c	1	0	3	1	0	0	0	0				
	blank	11	11	9	3	0	0	3	0				
a)SS	a									19	32	6	2
b)others	a,b									0	2	0	0
	b									1	6	0	2
	blank									12	10	0	1

ものが目立つ。

国際政治：日本の政治は非常に強力なので、他の国に尊敬されている。国際関係：日本は世界平和の実現のために、外交を行う。(UP-S20)

日本は、天皇を元首とする議会制統治制度の国。しかし、政府の代表は総理大臣。(UP-S24)

日本はよく鯨を捕る。なので国連によく叱られている。日本はグローバル化の影響を受けないように自国民を進歩させはじめた。その結果、アメリカやインドネシアなど他に国々で寿司を売っている。(UP-S48)

昔の日本について。中国文化の影響や明治維新。中国文化の影響について学ぶのが好き。日本は特別卓越した文化を持っていなかったが、当時の先進国である中国の文化の影響を受けた。(UH-S5)

日本と朝鮮の戦争。日本は中国を支配したかったので、朝鮮を中国支配のためのステップストーンにした。朝鮮はこれを受け入れなかったため日本と朝鮮は戦争になった。明治維新。日本民族への中国文化の影響。(UH-S23)

日本の復活は明治維新後に始まった。高い規律とカイゼン文化を適用することで、日本は急速に発展した。最初の汽車はイギリスで発明されたが、世界最速の列車は日本にある。(UH-S35)

日本は中国から文化を輸入した。当時、中国は自分の文化がとても高度であると言っていた。日本は中国から文化を入る際に、そのまま受け入れただけではなく、日本にもって来てより洗練させた。例えば衣服。(UH-S41)

西スマトラのパダンに行ったとき、日本人によってつくられた穴を訪れた。働かされたのはインドネシア人。穴を作られたとき、多くのインドネシア人が虐殺された。

(UE-S18)

ジャスト・イン・タイムというマネジメント (UE-S44)

KS側は、回答が非常に少ない。具体的な内容を挙げている回答は、以下のものである。

農地の1つとして雑木林のような土地があり、そこでも各家庭で普段食べる物を採っている。村の中で食いつぶされる者が出ないように、稲刈りに参加した人に収穫の一部が与えられる。めでたい式の場合バナナがつるされていて、

それを各々勝手に食べる習慣がある。(KS-S3)

インドネシアには多様な民族が存在し、それぞれが独自の言語や文化を持っているということ。そのため農村部では、米が主食のことが多いが、都市部では食事が多様化している。(KS-S6)

(7) 学習要望

1) 学習要望の傾向

どの学校種のどの教科等でパートナー国について学習すべきかということについては、全体としては、UNSR側も KU側も、学生も教員も、自身の学習経験と同じパターンが望ましいと思っている。

小学校について、UNSRの学生と教員のほとんどが、IPSで日本について学ぶべきだと回答している。無回答者は、小学校での学習経験の場合とそれほど違わない。KU側は、学生の多く、教員のほとんどが、SSでインドネシアについて学ぶべきだと回答している。無回答者は、学生は小学校での学習経験の場合とそれほど違わないが、教員にはほとんどいない。(Table7)

中学校について、UNSRの学生と教員のほとんどが、他の科目と併せる場合も含めて、IPS-Hで日本について学ぶべきだと回答している。無回答者は、中学校での学習経験の場合とそれほど違わない。KU側は、学生と教員のほとんどが、他の分野と併せる場合も含めて、SS-Gでインドネシアについて学習すべきだと回答している。無回答者は、学生では、中学校での学習経験の場合より若干減り、教員ではゼロである。(Table8)

高等学校について、UNSRの学生と教員のほとんどが、IHで日本について学習すべきだと回答している。無回答者は、高等学校での学習経験の場合に比べて、学生で若干増えている。KU側は、学生と教員のほとんどが、他の科目と併せる場合も含めて、GHGでインドネシアについて学習すべきだと回答している。無回答者は、学生も教員も、高等学校での学習経験の場合よりかなり減っている。

(Table9)

大学について、UNSRの学生と教員の多くが、他の科目と併せる場合も含めて、IHで日本について学習すべき

Table8

		UP-S	UH-S	UE-S	UM-S	UP-L	UH-L	UE-L	UM-L	KS-S	KM-S	KS-L	KM-L
a)IPS-G	a	2	2	10	4	0	2	2	0				
b)IPS-H	a,b	5	0	3	4	1	0	0	0				
c)IPS-E	a,b,c	0	3	1	0	0	0	3	1				
d)PKN	a,b,d	1	0	0	0	0	0	0	0				
e)others	a,b,c,d	1	1	2	2	2	0	1	0				
	a,c	0	0	1	1	0	0	0	1				
	a,c,d	0	0	1	0	0	0	0	0				
	b	21	32	19	11	2	2	0	1				
	b,c	0	0	2	0	0	0	1	0				
	b,d	8	1	0	0	1	0	0	0				
	c	1	0	1	0	0	0	1	0				
	d	4	0	0	1	0	0	1	0				
	e	0	1	1	1	0	0	0	0				
	blank	10	10	8	1	0	0	3	0				
a)SS-G	a									21	33	2	3
b)SS-H	a,b									2	2	1	1
c)SS-C	a,b,c									0	0	3	1
d)others	a,b,c,d									0	0	0	0
	a,c									0	2	0	0
	a,d									0	1	0	0
	b									1	3	0	0
	c									0	1	0	0
	d									0	0	0	0
	blank									8	8	0	0

Table9

		UP-S	UH-S	UE-S	UM-S	UP-L	UH-L	UE-L	UM-L	KS-S	KM-S	KS-L	KM-L
a)IG	a	1	2	6	0	1	0	2	0				
b)IH	a,b	1	0	1	2	1	0	1	0				
c)IE	a,b,c	1	2	5	1	0	0	2	0				
d)PKN	a,b,d	2	0	0	0	0	0	0	0				
e)others	a,b,c,d	0	0	2	1	1	0	1	0				
	a,b,c,e	0	0	1	1	0	0	2	1				
	a,c	0	0	1	1	0	0	0	0				
	a,e	1	0	1	0	0	0	0	0				
	b	18	32	14	10	0	4	0	0				
	b,c	0	0	4	2	0	0	1	0				
	b,c,d	1	0	0	0	0	0	0	0				
	b,c,d,e	1	0	0	0	0	0	0	0				
	b,d	11	1	0	0	2	0	0	0				
	b,e	0	0	0	1	0	0	0	0				
	c	1	1	1	3	1	0	2	1				
	c,e	0	0	1	0	0	0	0	0				
	d	2	0	0	1	0	0	1	0				
	e	1	1	5	1	0	0	0	0				
* f,g = 0	blank	12	11	7	1	0	0	0	1				
a)GHG	a									15	29	1	3
b)GHW	a,b									4	5	1	1
c)GHJ	a,b,c									1	0	1	0
d)CPS	a,b,c,d,f									0	0	2	0
e)CPT	a,b,d,f									0	1	1	0
f)CPE	a,b,g									0	1	0	0
g)others	a,d									1	1	0	0
	a,d,f									1	0	0	0
	a,f									0	1	0	0
	b									1	1	0	0
	c									0	1	0	0
	d									0	2	0	0
	f									0	2	0	0
	g									1	1	0	1
* e = 0	blank									8	5	0	0

だと回答している。これは、大学での学習経験とは異なる傾向である。無回答者は、大学での学習経験の場合に比べて、学生と教員共に減っている。KU 側は、学生と教員の

ほとんどが、他の科目と併せる場合も含めて、JG でインドネシアについて学習すべきだと回答している。無回答者は、大学での学習経験の場合よりかなり減っている。

Table10

		UP-S	UH-S	UE-S	UM-S	UP-L	UH-L	UE-L	UM-L	KS-S	KM-S	KS-L	KM-L
a)IG	a	1	1	2	1	0	0	1	0				
b)IH	a,b	1	0	1	1	0	0	0	0				
c)IE	a,b,c	0	1	4	1	0	0	2	0				
d)PKN	a,b,c,d	0	0	1	1	0	0	0	0				
e)others	a,b,c,d,e	0	0	0	0	0	0	3	0				
	a,b,c,e	0	0	1	1	0	0	0	1				
	a,b,e	0	0	0	0	0	0	0	0				
	b	15	35	9	8	1	2	0	0				
	b,c	0	2	4	0	0	0	0	0				
	b,c,d	1	0	0	0	0	0	0	0				
	b,c,d,e	1	0	0	0	0	0	0	0				
	b,d	7	0	0	0	4	0	0	0				
	c	0	0	10	1	0	0	2	1				
	c,d	1	0	1	0	0	0	0	0				
	d	7	0	1	2	1	2	1	0				
	e	3	0	6	3	0	0	1	0				
* f,g = 0	blank	16	11	9	6	0	0	2	1				
a)JG	a									17	20	0	2
b)JH	a,b									1	5	2	0
c)JL	a,b,d,f									0	0	1	0
d)JE	a,b,d,f,g									0	0	1	0
e)JPH	a,b,d,f,g,h									0	0	1	0
f)JPO	a,b,d,h									0	1	0	0
g)JS	a - i									1	0	0	0
h)JTS	a,d									1	2	0	0
i)others	a,d,f									0	1	0	0
	a,d,h									0	0	0	1
	a,f									0	0	1	0
	a,g									0	1	0	0
	a,i									0	1	0	0
	b									0	1	0	0
	c,d,f									0	1	0	0
	c,d,h									0	1	0	0
	d									0	1	0	0
	g									1	1	0	0
	i									0	3	0	1
* e,f,h = 0	blank									11	11	0	0

(Table10)

このように、UNRSRI では、ほとんどの学生と教員が、小・中・高・大を通じて、歴史系の科目で日本について学ぶべきだと考えている。それに対して、KU では、ほとんどの学生と教員が、小・中・高・大を通じて、地理系の科目でインドネシアについて学ぶべきだと考えている。

2) 具体的イメージ等

UNRSRI 側は、日本による植民地化の歴史については、そのようなことが再発しないために学び、戦後の日本の復興と先進国化については、インドネシアのモデルとして学ぶべきだという回答が多い。そして、それらを小学校から大学まで段階的に学ぶべきとする回答も、比較的多く見られる。この傾向に、文系と理系の違いは見られない。

- ・小学校の社会科で日本の実例を教えた方がよい。インドネシアと日本との違いなど。中学校の社会科で歴史を教えた方がよい。植民地のやり方を勉強して、再発しないようにする。高校では歴史を勉強する方がよい。インドネシアで行われた植民地に関するポジティブな面とネガティブな面を勉強する。大学の国際政治の授業で、イ

ンドネシアと日本の経済協力を勉強する。たとえば、アジア経済のメンバーとしてどのような協力をするか。

(UP-S4)

- ・小学校で日本の地理的位置や日本事情を勉強した方がいい。中学校では、日本によるインドネシアの植民地化の歴史について勉強したほうがいい。高校では、第2次世界大戦における日本の役割について勉強した方がいい。大学では、日本のことをもっと詳しく、どのように先進国になれるのかについて勉強した方がいい。(UH-S33)
- ・小中高：歴史を学んで、インドネシアが再び植民地化されないように過去から学ぶ。大学：日本の経済について学ぶ、日本はアジアの先進国だから。日本で使われている技術をたくさん学ぶべき。(UE-S44)
- ・小学校：日本について学ぶべき。社会科で。インドネシアの歴史と関係あるから。中学校：地理で日本について学ぶべき。気候、プレート、地震について知るよい例だから。高校：経済科目で日本について学ぶべき。日本は豊かな国に属するから。人的資源と天然資源、労働力と日本の経済を推進している貿易を、日本人が作り出した技術と結びつけながら明らかにする。大学：インドネシ

アの教育をより良くするために日本人が使っている知識や技術を知るべき。文化、社会、宗教の分野からよく受けることができる。(UM-S21)

KU 側は、インドネシアに関する学習経験や記憶が少ないこともあり、望ましい学習に関するイメージもあまり具体的に持っていない。また、そもそも何のためにインドネシアについて学ぶべきなのかについて、UNSRI 側が日本に対してもっているほど確かな目的意識は持っていない。確かな目的意識や具体的な学習イメージが語られている回答に、以下のものがある。

- ・インドネシアに限らず、日本と東南アジアは、現在非常に重要な関係にある。しかし、中国、韓国と比べると距離が遠いこともあって、あまり詳しいことは知らない学生も多いと思う。だから、中学校の地理的分野でしっかりと取り上げ、さまざまな知識を身につけさせるべきだと思う。(KS-S2)
- ・地理学ではインドネシアの具体的な位置などを学び、歴史学では独立への動きやスカルノ時代、政治体制について学ぶべきだと思ったから。日本と関係が深い国であるので、いずれにしても学ぶ必要はあると思う。(KS-S16)
- ・インドネシアの風土、歴史などを学習するためには、社会科や地理、歴史科などを中心に学習していくことが基本となると思います。その際、日本からはかなり地理的にも離れた場所に位置しているため、具体的な生活のようすや文化などについて、映像などの媒体を用いて指導していくことで、イメージをもつことができるようにすべきだと思います。(KM-S3)

4. おわりに

調査の結果、相手国に関する興味や知識、小学校から大学までにおける学習経験および学習要望について、UNSRI と KU でははっきりと差があることが明らかになった。UNSRI 側は、日本に関して興味をもち、経済・技術、教育・性格、文化、自然、戦争・植民地にわたる幅広い領域について知識を有し、小学校から大学までにおいて主に戦争・植民地にかかわる学習経験が多く、より明確な目的のもとでの学習要望を有している。これらのことに、文系と理系の差はない。KU 側は、インドネシアに関してそれほど興味をもっておらず、地理的位置や国名以外はあまり知識をもっておらず、小学校から大学までにおける学習経験が少なく、望ましい学習についての具体的なイメージをもっていない。インドネシアに関する興味や知識について、文系と理系の差が認められるが、その他のことについて差はない。

このような現状のもとで、日本とインドネシア相互理解のためのカリキュラム開発をどのように行っていくべき

であろうか？ 両国の教科編成と、各教科課程への相手国の位置づけが異なるため、共通の包括的カリキュラムを開発することは、実効性の面で現実的ではない。現実的なのは、両国の教科課程の中で「投げ入れ」的に実施可能な単元の開発、あるいは、関連授業の中で活用できる教材の開発である。UNSRI 側がインドネシアの現状を表しているとするれば、インドネシアの児童・生徒は、学校では主に日本による植民地化について学習するが、おそらくマスメディアや日本製品などの影響により、日本のさまざまな側面について一定の知識を持っている。しかし、「植民地」については、当時の日本が、「外地」と称していた台湾や朝鮮などのいわゆる植民地と、シンガポールやインドネシアなど戦争の過程で日本軍を統治していた占領統治を区別しており、認識の違いがある。また、日本の教育がよい人材を育成し、技術の発展を促進しているという見方が広く共有されているが、日本の教育や技術発展などの問題点には意識が及んでいない。KU 側が日本の現状を表しているとするれば、日本の児童・生徒には、インドネシア全般に興味をもち、学習することが必要である。主にインドネシアの児童・生徒用に「日本による植民地経営と占領統治」と「日本の技術発展と教育のかかわり」に関する単元・教材開発を、主に日本の児童・生徒用には、インドネシアについての興味・関心を引き出すための単元・教材開発を行っていくことが求められるであろう。

- 1 「日本とインドネシアの観光関係 ～インドネシアを訪問する日本人観光客を増加させるには」在インドネシア日本国大使館 HP, http://www.id.emb-japan.go.jp/speech_dubes_trsm_j.html#contentstop
- 2 「インドネシア、インドネシア訪問日本人 55 万人を目指す 2016 年の取り組みを紹介」(2016/4/4 19:50) トラベル Watch, <http://travel.watch.impress.co.jp/docs/news/751556.html>
- 3 インドネシアを直接対象とした相互理解カリキュラム開発の事例は、管見の限り存在しない。唯一関連する研究としては、パラストゥティによる「日本の現代社会問題に基づく国際理解教育のモデル・カリキュラム開発-インドネシア人の看護士・介護福祉士を例に-」(愛知教育大学社会科教育学会『探究』, 23, 2012, pp31-41.) がある。この研究で、パラストゥティは、日本の現代社会問題としてのインドネシア人看護士・介護福祉士問題を解決するための実践的判断能力・意思決定能力を高めることを目的に、インドネシア人看護士・介護福祉士や受入施設スタッフ、一般の日本人に対するアンケート調査をもとに、日本の小学生・中学生・高校生を想定したインドネシア理解単元群を作成している。小学校用単元は「「外国人」ってどんな生活だろう？」であり、インドネシア人に限らず外国人一般に対する偏見除去を目的として、外国人の生活(食べ物・衣服・行事/宗教)を知る学習である。中学校用単元は「「日本」って先進国になって、よかつ

た？」であり、世界の経済的な面での日本の立場や日本の人口増加について調べ、医療・介護分野の重要性と対策について考えさせる学習である。高校用単元は「「大きい」と思う？ 「細かい」と思う？」の記事を収集しよう」であり、「外国人のおおらかさと日本人の細かさが合わない」という表現の背景となる、日本の生活ルール、人間関係、労働環境、日本語の特徴について調べ、インドネシア人看護師・介護福祉士と日本人との共生について考える学習である。インドネシア人看護師・介護福祉士と日本人との間で実際に生じている衝突や行き違いという、現実には生じている社会問題を解決するために必要な知識・能力・態度を育成する単元群を開発している点で、参考になる。しかし、看護師・介護福祉士という特定の職業や労働環境に特化した学習となり、内容的にも意識の面でもインドネシア人一般と交流するために必要な学習になりにくいこと、日本人児童・生徒のための単元のみを開発であり、相互理解という視点とそれに必要な内容を欠いている、という問題点を指摘することができる。

4 所属や氏名等 1～4 以外の質問項目は、以下のものである。なお、ここでは UNSRI 側に提示した英文を掲載する。実際の調査では、UNSRI 側はインドネシア語に翻訳した質問し、KU 側は日本語に翻訳し、教科等名称を日本のものに変更した質問紙を使用した。

5. Are you interested in Japan? Please check one of the four choices below.

- a) very interested,
- b) interested,
- c) not interested so much,
- d) not interested at all

6. What do you know about Japan? Please write it down as much as possible.

7. In which subject did you learn about Japan? Please check the fitting subject and describe impressive contents you often recall for each school level?

A. Primary school:

- a) IPS,
- b) PKn,
- c) others

Impressive contents you often recall.

B. Junior high school:

- a) IPS-Geography,
- b) IPS-History,
- c) IPS-Economics,
- d) PKn,
- e) others

Impressive contents you often recall.

C. Senior high school:

- a) Geography,
- b) History,
- c) Economics,
- d) PKn,

e) others

Impressive contents you often recall.

D) University:

- a) Geography,
- b) History,
- c) Economics,
- d) PKn,
- e) others

Impressive contents you often recall.

11. In which subject should the students learn about Japan? Please check the fitting subject and describe your concrete image about the lesson and/or reason for your choice on subject.

A. Primary school:

- a) IPS,
- b) PKn,
- c) others

B. Junior high school:

- a) IPS-Geography,
- b) IPS-History,
- c) IPS-Economics,
- d) PKn,
- e) others

C. Senior high school:

- a) Geography,
- b) History,
- c) Economics,
- d) PKn,
- e) others

D. University:

- a) Geography,
- b) History,
- c) Economics,
- d) PKn,
- e) others

Concrete image or reason

- 5 UNSRI の学生が小学生であった間に適用されていた 2006 年カリキュラムでは、小学校 5 年生の IPS において、「オランダと日本の植民地時代における [独立運動] 闘士の闘い」について学ぶことが規定されている。(Badan Standar Nasional Pendidikan: Standar Isi Untuk Satuan Pendidikan Dasar dan Menengah. Standar Kompetensi dan Kompetensi Dasar SD/MI, Jakarta, 2006, p180.) KU の学生が小学生であった間に適用されていた平成 10 年版学習指導要領では、小学校 6 年生で「我が国と経済や文化などの面でつながりが深い国の人々の生活の様子」について学習する際に、「我が国とつながりが深い国から数か国を取り上げること」とされている。学校や教員の判断で、インドネシアを取り上げることが可能ではあるが、必然的に取り上げることにはなっていない。
- 6 UNSRI の学生が中学生であった間に適用されていた 2006 年カリキュラムでは、中学校 2 年生の IPS において、「西洋の植民地主義と帝国主義の展開過程と、それが様々な地方で引き起こした影響」について学ぶことが規定されている。第二次世界大戦中の日本による統治について学ぶ可能性が暗示されている。(Badan Standar

Nasional Pendidikan: Standar Isi Untuk Satuan Pendidikan Dasar dan Menengah. Standar Kompetensi dan Kompetensi Dasar SMP/MTs,

Jakarta, 2006, p162.) KU の学生が中学生であった間に適用されていた平成 10 年版学習指導要領では、以下に示すように、インドネシアを取り上げる可能性は示されているが、インドネシアを取り上げることは必然ではない。地理的分野：「世界の地域構成」について「主な国々の名称と位置などを取り上げ」て学習することになっている。

「地域の規模に応じた調査」では、「世界の国々の中から幾つかの国を取り上げ」て学習することになっている。

「世界と比べて見た日本」では、「世界的視野から見た日本の地域的特色」も学習することになっている。歴史的分野：「近世の日本」を扱う際に「ヨーロッパ人の来航について理解させる」ことになっており、そのこととの関わりでオランダ人が拠点としていたバタヴィア（ジャカルタ）に触れることが可能である。「近現代の日本と世界」において、昭和初期から第二次世界大戦の終結までを扱う際に、「中国などアジア諸国との関係」に着目させることになっており、インドネシアに着目させることは可能である。公民的分野：「世界平和と人類の福祉の増大」について学習する際に、「国家間の相互の主権の尊重と協力、各国民の相互理解と協力」が大切であることを認識させることになっている。

- 7 UNSRI の学生が高校生であった間に適用されていた 2006 年カリキュラムでは、高校 2 年生歴史科において、「西洋の影響の流入から日本にほる占領までのインドネシア民族の発展」について学ぶことが規定されている。

(Badan Standar Nasional Pendidikan: Standar Isi Untuk Satuan Pendidikan Dasar dan Menengah. Standar Kompetensi dan Kompetensi Dasar SMA/MA,

Jakarta, 2006, p189.) KU の学生が高校生であった間に適用されていた平成 10 年版学習指導要領では、以下に示すように、インドネシアを取り上げる可能性は示されているが、インドネシアを取り上げることは必然ではない。世界史 B：「諸地域世界の結合と変容」の「アジア諸地域世界の繁栄と成熟」について学習する際に、「東南アジア海域世界とイスラーム世界の動向」も扱うことになっている。ここでインドネシアを取り上げる可能性は高い。

「地球世界の形成」の「二つの大戦と世界」を学習する際に、「アジアの民族運動」などを扱うことになっている。日本史 B：「近世の社会・文化と国際関係」の「織豊政権と幕藩体制の形成」において、「ヨーロッパ世界との接触とその影響」を学習することになっている。オランダ人が拠点としていたバタヴィア（ジャカルタ）に触れることが可能である。「両世界大戦期の日本と世界」の「第二次世界大戦と日本」の学習で、「アジア近隣諸国との関係」に着目することになっている。インドネシアを取り上げることは可能である。地理 B：「現代世界の地誌的考察」の「国家規模の地域」の学習においてインドネシアを取り上げることは可能である。「現代世界の諸課題の地理的考察」の「近隣諸国研究」においてインドネシアを取り上げることは可能である。公民科の諸科目については、インドネシアを学習対象ないしは事例として取り上げることを明示ないしは暗示する項目は見当たらない。現代社会の特質や、政治、経済の国際的広がりについて学ぶための内容の一部ないしは事例として、インドネシアを

取り上げることは可能であろう。